都市再生整備計画 事後評価シート 東部拠点地区

平成26年3月

大阪府吹田市

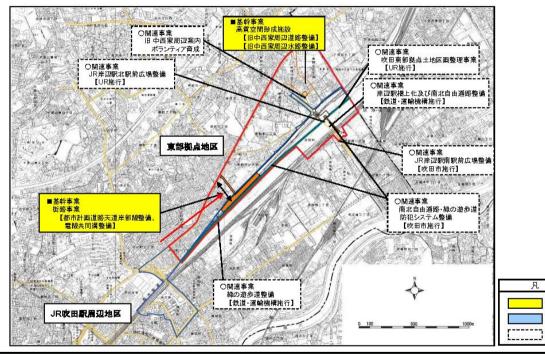
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	大阪府		市町村名 吹田市			地区名			東部拠点地区				面積	約96.5ha			
	平成21年度~25年度		事後評価第	事後評価実施時期 平成25年		成25年度		交付対	対象事業費	707.5百万円		国	費率 0.4				
	当初計画に ロールール		事業名														
1)事業の実施状況	位置づけ、	基幹事業															
	実施した事業	提案事業															
		1	事業名						削除/追加の理由 鉄道運輸機構が整備する貨物ターミナル駅建設工事が遅延し、緑				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響 緑のふれあいゾーン I を整備することにより、緑の遊歩道利用者や				
	当初計画 から 削除した 事業	基幹事業							のふれあいゾーン整備予定用地内に軌道線等が残存していたため 工事着手ができず、交付期間内での完成が困難となったため								
			地域生活基盤施設(情報板設置)						条内板には将米整備される施設の情報表示などの機能をもった施設としたいため、料来整備される施設が明らかになる2期計画で整備することとした。								
		提案事業	地域創造支援事業(わんわんパトロール隊育成)						わんわんパトロールとしての活動拠点となる緑のふれあいゾーンや 緑の遊歩道の整備完成が交付期間内では困難なため削除				パトロール活動によるまちづくり活動への参加者増を見込んでいた ことから、その影響は大きい				
	新たに追加し	基幹事業															
	た事業	提案事業															
	交付期間 の変更		平成21年度~ なし	~25年度		交付期間の変更による事業、 指標、数値目標への影響											
2)都市再生整備計画 に記載した目標を 定量化する指標 の達成状況	***	指標			従前値		目標値		数			1年以内の		効果発現要		フォローアップ	
		1		単位		基準年度		目標年度	モニタリング	評価値	達成度		見込み	(総合所見 鉄道運輸機構が整備する緑の		予定時期	
	指標1	緑の遊歩道	利用者数	人/日	0	平成20年 度	1,000	平成25年 度		-	×	あり なし		遅れが生じ、平成26年3月末と 者数増加の発現要因となる緑 整備完成が平成28年3月であ 効果が現れない。	なったこと、また、利用 のふれあいゾーンの	2期計画の 事後評価時 (平成30年9月)	
	指標2	天道岸部線の通行量		人/12h 台/12h	82人/12h 882台/12h	平成20年 度	170人/12h 1,000台/12h	平成25年 度		65人/台 724台/12h	×	あり なし		事業中であるため効果は発現し (H26.6完成予定) また、通行量増加の要因の一つ ゾーンの整備完成まで効果が望	つである緑のふれあい	2期計画の 事後評価時 (平成30年9月)	
	指標3	まちづくり活動への参加者数		,	20	平成20年 度	200	平成25年 度		15	×	ありなし		まちづくり活動(ボランティア)の あいゾーン I や緑の遊歩道を 成まで効果が現われない。		2期計画の 事後評価時 (平成30年9月)	
3)その他の数値指標 (当初設定した数値 目標以外の指標)に よる効果発現状況		指標			従前値		目標		数	値	目標	1年以内の		効果発現要		フォローアップ	
		1日 1本		単位		基準年度		目標年度	モニタリング	評価値	達成度※1	達成.	見込み	(総合所見	1)	予定時期	
	その他の数値指標1	<mark>数値指標1</mark>															
	その他の 数値指標2																
					として、操車場跡 立循環器病研究						計画道路の整備	#や公園・	緑地、ライ	イフラインの整備を土地区	画整理事業等によ	り進めてきた。これ	
5)実施過程の評価			実施内容						実施状況					今後の対応方針等			
	モニタリング		なし都市再生					都市再生整	経備計画に記載し、実施できた 経備計画に記載はなかったが、実施した 経備計画に記載したが、実施できなかった								
			市民フォーラムは東部拠点地区のまちづくりについて市民が自ら都市再生整									224年4月12日以降はまちづくりに関して協議事項等がないとの判断から、 動を休止。懸案であった国立循環器病研究センターの誘致決定(平成25年6					
	住民参 プロセ		運営し、活動を行う組織として「東部拠点のまちづくり市民フォーラム」が結成され、まちの将来像などのついての協議が行われました。(平成24年4月12日までに40回開催され、延1.481名の市民が					B備計画に記載はなかったが、実施した 				月11日) 今後は、	11日)後解散。 後は、市民フォーラムとの協議事項の実現を目指して、市主催の説明会を施しながら工事施工を進める。				
												実施しな					
	+± 4± 45 +	+ ~/!!	都市再生整						備計画に記載し、実施できた 備計画に記載はなかったが、実施した								
	持続的なま 体制の棒																
	11 42 5 7							都市再生整	修備計画に記載し	たが、実施できた	なかった						

1

様式2-2 地区の概要

東部拠点地区(大阪府吹田市)まちづくり交付金の成果概要 まちづくりの目標 目標を定量化する指標 従前値 日標値 評価値 大目標:「緑と水につつまれた健康・教育創生拠点」の創出を目指したまちづくり 人/日 0 緑の遊歩道利用者数 平成20年度 1000 平成25年度 平成25年度 〔目標1】まちの魅力の向上と安心で安全なまちの両立:吹田市の東部拠点としてふさわしい憩いと潤いのある空 間の創出を図るため、緑のふれあいゾーンの整備や緑の遊歩道(延長約2.0Km、幅員12m)の整備や天道岸部 人/12h 82人/12h 170人/12h 65人/台 天道岸部線の通行量 平成20年度 平成25年度 平成25年度 線の無電柱化を行い、まちの魅力向上や緑あふれるまちの実現とともに、安心で安全に集うことのできるまちの 台/12h 882台/12h 1,000台/12h 724台/12h 両立を目指す。 まちづくり活動への参加者数 人 20 平成18年度 200 平成25年度 15人 平成25年度 【目標2】交通利便性の向上:すべての人にやさしいまちの実現を目指し、アクセス路の整備、JRによる南北の分 断を解消するとともに、総合的にバリアフリー化を推進することにより、地域の交通環境や利便性の向上を図る。 【目標3】協働によるまちづくりの実施:緑と水につつまれた健康教育創生拠点の創出を目指したまちづくりを市民 と協働で行う。



①本地区は2つの医療機関が移転建て替えを行い、平成30年度(2018年度)開院予定である。このため、緊急搬送路の機能を併せ持つ都市計画道路の整備や医療イノベーション拠点として展開が予定される正

例

基幹事業

提案事業 関連事業

まちの課題の変化

②JR岸辺駅が橋上化され、鉄道による南北分断解消を図る自由通路が整備された。駅改札と直結する自由通路から2つの医療機関に対して、歩行者が安全で快適に移動できる歩行者空間を確保することが 望まれている

③1期計画により都市計画道路の整備を行ってきたが土地区画整理事業の進捗にあわせ、地域住民が親しみをもって憩える空間や、地震、災害などの非常時に防災活動や援助・復旧活動の拠点機能を有す る公園や道路等の整備が望まれている

今後のまちづくり の方策

都市再生整備計画(2期計画)を作成し、上記課題の解決を目指す。

雀下水処理場跡地の利活用を図るための都市基盤施設(道路、公園、ライフライン)の早期整備が望まれている

2

(改善策を含む)